

テキストマイニングを用いた乳幼児を育児中の母親における マルトリートメント傾向に関する検討

春日由美 山口大学教育学部 / 田中理絵 西南学院大学人間科学部 / 川崎徳子 山口大学教育学部
天満誠也 福山大学工学部

Study on maltreatment tendencies in mothers raising infants using Text Mining technique

KASUGA, Yumi

Faculty of Education, Yamaguchi University

TANAKA, Rie

Department of Human Sciences, Seinan Gakuin University

KAWASAKI, Tokuko

Faculty of Education, Yamaguchi University

TEMMA, Seiya

Faculty of Engineering, Fukuyama University

(Received January 31, 2024)

要約

本研究は、乳幼児を育児中の母親を対象にインタビュー調査を行い、マルトリートメント傾向のある母親とそうでない母親の差異を、テキストマイニングを用いて検討することを目的とした。方法として、乳幼児を育児中の母親12名を対象に、母親や子ども、その他の人間関係等について半構造化のインタビュー調査を行い、Text Mining Studioを用いて、マルトリートメント傾向群（3名）と非マルトリートメント群（9名）に分けて分析した。インタビュー内容をテキスト形式にデータ化し、①「自分」「子ども」の単語とつながりが見られる単語、②動詞・形容詞で出現が多い単語、③①②のうちマルトリートメント傾向群と非マルトリートメント群で異なる単語を検討した。その結果、マルトリートメント傾向群は、人間関係を重視したり、日常的に不快な感情を感じたり、長子に対して葛藤を抱えている可能性などが考えられた。一方、非マルトリートメント群では、子育ても含めて自分を中心に考えている可能性が考えられた。

キーワード：乳幼児，母親，マルトリートメント，テキストマイニング，Text Mining Studio

I 問題と目的

児童相談所における児童虐待相談の対応件数は増加し続け、令和4年度中は219,179件（速報値）で過去最多となっている（子ども家庭庁、2023）。また、令和3年度の児童相談所における児童虐待相談では、主な虐待者のうち、最も多かったのは母親（47.5%）であり（厚生労働省、2023）、特に母親に対する虐待予防や早期発見のための効果的な対策の検討が重要といえる。

「虐待子ども虐待対応の手引き（平成25年8月改正版）」（厚生労働省、2013）において、「虐待のおそれのある要因・虐待のリスクとして留意すべき点」として挙げられているの

は、①保護者側、②子ども側、③養育環境、④その他（妊婦検診未受診等）であり、そのうち保護者側のリスク要因だけでも、妊娠、出産、育児を通して発生するもの（望まない妊娠・出産や若年の妊娠・出産、妊娠中の問題、マタニティブルーズ、産後うつ病等）、保護者自身の性格や精神疾患等の精神的に不安定な状態（攻撃的・衝動的であることや、精神障害、知的障害、慢性疾患、アルコール依存、薬物依存、保護者自身の被虐待経験等）、保護者が精神的に未熟、保護者の特異な育児観や強迫観念に基づく子育て、あるいは子どもの発達を無視した過度な要求、正常な発達についての知識不足によるいらだち（食事が遅い、泣き止まない）など、多岐にわたる。これら多数の虐待のリスク要因が指摘される一方で、「子ども虐待は、身体的、精神的、社会的、経済的等の要因が複雑に絡み合って起こると考えられている。しかし、それらの要因を多く有しているからといって、必ずしも虐待につながるわけではない」（厚生労働省、2013）ともされ、個々の細かな要因に注目するだけでは、虐待の予防や発見につなげることができないことが推察される。また、虐待している保護者の特徴として、体罰肯定感、自己の欲求の優先傾向、子育てに対する自信の消失、子どもからの被害の認知、子育てに関する疲労・疲弊感、子育てへの完璧指向性、子どもに対する嫌悪感・否定感があるとされるが（日本小児科学会子どもの生活環境改善委員会、2022）、例えば子育てに関する疲労・疲弊などはどの保護者であっても、多かれ少なかれ感じるであろう。

ところで、これまで一般の母親における虐待傾向についても報告されている。日本小児保健協会（2011）の調査では、1歳から6歳までの子どもを育児中の母親のうち、「子どもを虐待しているのではと思う」が全体の11%であったことが報告されている。また丸山ら（2005）は、両親やいずれかの親に軽度虐待

傾向（子どもを感情的にたたきたくなる、子どもに感情的に暴言を言いたくなる等）がある家庭が約30%存在していたこと、また母親が父親より軽度虐待傾向の得点が高いことを報告している。

このように、一般家庭においても、軽度の不適切な養育が行われていることも少なくないと考えられる。そしてこのような児童虐待の意味を広くとらえた「大人の子どもへの不適切な関わり」を意味する言葉として、マルトリートメントがある（厚生労働省、2013）。柳川（2005）は「子どもを救うという目的のためには、子どもへの不適切な関わり、すなわちマルトリートメントという広義の概念が必要である」としており、虐待の予防や発見のためには、狭義の虐待について検討するだけでなく、マルトリートメントの概念を用い、一般の家庭、特に母親におけるマルトリートメント傾向について検討することは重要と考えられる。

そして、これまで一般の親を対象としたマルトリートメントや虐待傾向などについての研究もなされてきた¹⁾（白石ら、2002；丸山ら、2005；唐ら、2005；中谷、2016；西村・有村、2020など）。しかしながら、これらはいずれも研究者があらかじめ設定した尺度や心理検査への回答や反応からの検討であり、研究者が想定していない側面は明らかにすることができない。また、マルトリートメントや虐待傾向についての量的検討はこれまで多くなされてきたが、質的研究は十分とはいづらい。

そこで本研究では一般の母親を対象に、子育てや自分自身、周囲の人間関係やこれまでの生活等についてインタビュー調査を行い、マルトリートメント傾向にある母親とそうでない母親の特徴について質的データを用いて検討する。分析には、「分析者のもつ理論や問題意識によるバイアスをより明確に排除できる」（樋口、2020）とされるテキスト型のデータの分析方法を用いる。これは、単語や文章が持つさまざまな

まな特徴や関係を可視化するものであり、インタビューの回答といった定性的データを定量的に分析することができるため、これまでの先行研究からの知見や、研究者の問題意識にとらわれない検討ができる。

なお、これまで母親の育児に関する研究では、母親の自己受容と子ども受容（山口ら，2000），母親の自己イメージと育児不安（片山・奇，2007），自分や子どもへの感情（浅川・我部山，2022），母親の育児幸福感（明野，2023）などの視点から検討されていることから、まず自分や子どもへの意識について検討を行い、さらに先行研究からの知見や、研究者の問題意識にとらわれない視点から検討するために、インタビュー内に出現する動詞や形容詞といった一般的な言葉からも検討を行う。

II 方法

1. 対象者

対象者は乳幼児を育児中の母親12名（34.3±5.5歳）であり、子どもの数は1～4人であり、子どもの年齢は0歳～10歳で、男児13名、女児11名であった。なお、分析には子どもが乳幼児の時期の内容のみを用いた。

2. 調査方法

調査は山口大学での倫理審査の承認を受けた（管理番号：201810701）。対象者の募集は、保健センター（1カ所）と子育て支援拠点（2カ所）にチラシの配布等を依頼し行った。調査は2020年2月～2021年3月に実施した。調査にあたり、対象者に研究主旨と方法を説明し、同意を得た場合は同意書に記入してもらった。調査は半構造化のインタビュー調査で、1回2時間程度行った（1名につき2～4回、1人190～439分、合計3,353分、平均279.4分）。

3. 調査内容

家族の属性、母親自身、子ども、子育て、夫、自分と夫の実家、友人、地域住民、子育て支援

機関やその他の施設や専門家、保育所や幼稚園等、経済状況や就業状況、将来について、の12の内容について尋ねた。

4. 分析方法

1) 分析ソフト

インタビューで得られた文章内の単語や文章の特徴、同一文章内に出現する単語の組み合わせについて調べるため、NTTデータ数理システムのText Mining Studio (Ver.7.1.2)を用いて、テキストマイニング分析を行った。

2) 分析手順

本研究の目的は、マルトリートメント傾向の母親とそうでない母親それぞれの特徴について検討することである。中谷（2016）は、一般家庭の親にも経験される軽度の不適切な養育態度として、「頭をたたく」「大声でしかる」「泣いても放っておく」「子どもを無視する」など7項目を挙げているが、わずかでもこのような態度が見られる場合すべてをマルトリートメント傾向があるとみなすのは現実的ではない。そこで本研究では、本人または周囲が通常よりもその程度がひどいと認識しており、それが改善していない母親をマルトリートメント傾向群（3名）、怒ることもあるがマルトリートメントとは言えなかったり、怒るなどの発言がなかったり、過去にマルトリートメントを行っていたが改善した母親を非マルトリートメント群（9名）とし、それぞれの群について、「自分」「子ども」の単語を含む文章の特徴や、文章における動詞・形容詞の特徴について、以下の手順で検討した。

- ①インタビュー内容は内容のまとまりごとに区切って、テキスト形式にデータ化した。
- ②「分かち書き」（テキストを単語単位へ分ける）処理を行った。
- ③テキストデータの基本情報の算出を行った。
- ④「類義語辞書」機能により、「私」を「自分」に、「子」「子供」「こども」を「子

も」に、「主人」を「夫」に、「いう」を「言う」に、同じ単語としてまとめ上げた。

- ⑤「係り受け頻度解析」機能を用い、「自分」「子ども」の単語が文章中でどの単語と意味のつながりのある組み合わせで見られるかについて、上位10件を抽出し、マルトリートメント傾向群と非マルトリートメント傾向群で、異なる結果が得られた単語について「原文参照」機能により確認した。
- ⑥「単語頻度分析」機能を用い、動詞・形容詞のうち、どのような単語の出現が多いか、それぞれ上位10件を抽出した。
- ⑦「注目語情報」機能を用い、⑥の「単語頻度分析」機能で抽出した動詞・形容詞のうち、マルトリートメント傾向群と非マルトリートメント群で異なる結果が得られた単語について、文章中でどのような単語と同時に使用されることが多いかを抽出し、「原文参照」機能により確認した。出現回数は解釈のしやすさから2～3回とした。

Ⅲ 結果

1. 基礎データ

それぞれの群のテキストデータの基本情報を表1に示す。

表1. テキストデータの基本情報

	マルトリートメント傾向群 (n=3)	非マルトリートメント群 (n=9)
総行数	663	1441
総文章数	3,502	10,144
延べ単語数	23,609	67,430
単語種別数	3,859	7,809

2. 「自分」「子ども」とつながる単語（係り受け頻度分析）

マルトリートメント傾向群と非マルトリートメント群それぞれについて、「自分（私）」「子ども（子、子供、こども）」それぞれについて、「係り受け頻度分析」（上位10位）により抽出した結果を図1～図4に示す。

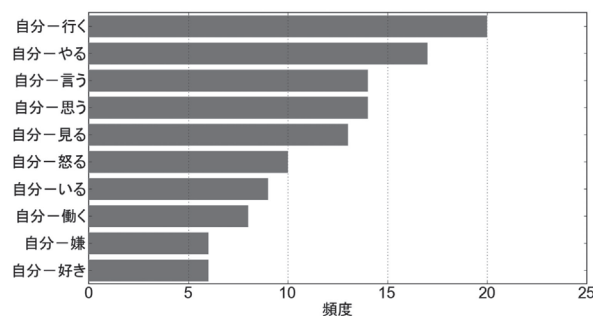


図1. マルトリートメント傾向群の「自分」の係り受け頻度解析

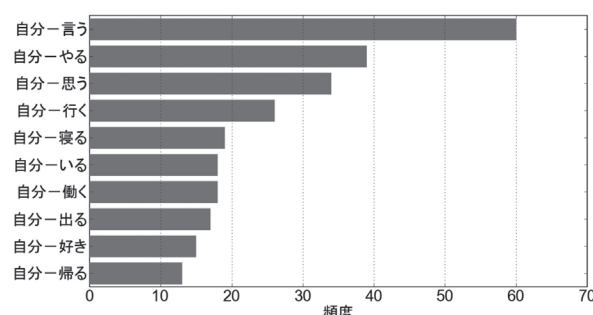


図2. 非マルトリートメント群の「自分」の係り受け頻度解析

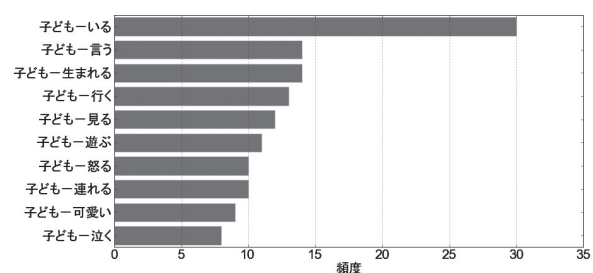


図3. マルトリートメント傾向群の「子ども」の係り受け頻度解析

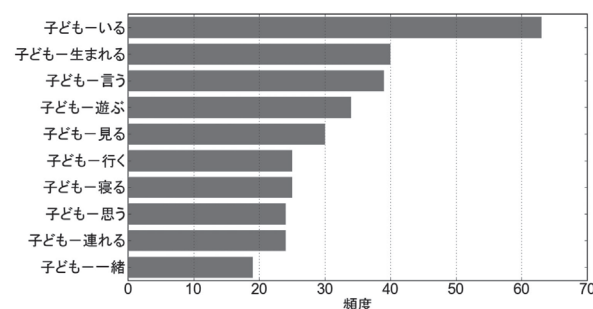


図4. 非マルトリートメント群の「子ども」の係り受け頻度解析

「自分（私）」についての係り受け頻度解析において、マルトリートメント傾向群と非マルトリートメント群で異なっていた単語は、マルトリートメント傾向群「見る」「怒る」「嫌」、

非マルトリートメント群「寝る」「出る」「帰る」であった。それぞれの群で、これらの単語がどのような文章に含まれているかを「原文参照」機能により確認した。

マルトリートメント傾向群で「自分（私）」と「見る」を含む文章は、「親もそういう私を見ているので（中略）妊娠した時、仕事辞めて専念したらと、家に専念したらと」「（公園に行った際に夫が）私と子どもを見ている」

「（保育園の先生が）私より日中（子どもを）見ているので」「（子どもにイラっとするのは）小さい頃の自分を見ているのかなと」などであった。「自分（私）」と「怒る」を含む文章は、「怒る自分も怒っている間も、ああいけないと思っている」「（子どもの）あまりの泣き声と私が多分怒ったことで、（隣人が）多分心配されて大丈夫ですか」「上の子を怒りすぎてたから（中略）（上の子が）私が怒っていないの確認しているのか」「（幼少期に親類から）私が怒られて泣いているけど、（自分の親は）何も言えない」などであった。「自分（私）」と「嫌」を含む文章は、「（自分が夫に言う言葉が）自分でも嫌だなんて思う」「怒っている自分は嫌い」「ご飯（作り）に時間がかかっている自分が嫌」「（子どもが言葉で）自分の嫌なこととかを跳ね返してくれる」「（知らない人の前で叱責されるのは）自分も嫌だと思ふし、子どもも嫌だと思ふ」などであった。

非マルトリートメント群で「自分（私）」と「寝る」を含む文章は、「（大切なのは）どれだけ自分が早く寝て、自分が長く寝れる時間がとれるか」「（子どもが）お昼寝している時に自分も寝てた」などであった。「自分（私）」と「出る」を含む文章は、「私が仕事に出て」や「私は（母乳が）出ないタイプで」など仕事や母乳に関わることが複数見られたほか、「（託児つきの講座に申し込んだが）私も託児をしたくて（子どもを預けたくて）外に出たの

かなと思う」などであった。「自分（私）」と「帰る」を含む文章は、実家に帰る内容が最も多く（12個の文章中7個）、帰宅や地元に戻るといった内容もあった。

「子ども（子、子供、こども）」についての係り受け頻度解析において、マルトリートメント傾向群と非マルトリートメント群で異なっていた単語は、マルトリートメント傾向群「怒る」「可愛い」「泣く」、非マルトリートメント群「寝る」「思う」「一緒」であった。それぞれの群で、これらの単語がどのような文章に含まれているかを確認した。

マルトリートメント傾向群で「子ども」を意味する単語と「怒る」を含む文章は、「こんなに子どもに怒る自分が大丈夫？って思うことも」「下の子への怒りがお兄ちゃんにも向かって」「下の子も怒るし、また泣くし」「子どもとしては怒られると思っていない」などであった。「子ども」を意味する単語と「可愛い」を含む文章は、「下の子は可愛い」といった下の子のみを可愛いとする内容が複数（9個の文章中5個）あり、「上の子が以前のように可愛く思えなくなった」「子どもの可愛いなとかあるんですけど、ただ忙しいのが勝っている（原文ママ）」などもあった。「子ども」を意味する単語と「泣く」を含む文章は、「（夫に）子どもが泣いたとか、ギャーギャー言うとか話します」「（離乳食を作っていると）子どもが泣いたり、一生懸命作っているのに食べなかったり」「（下の子が）泣いている、（上の子が）お母さんのど渴いたって」などであった。

非マルトリートメント群で「子ども」を意味する単語と「寝る」を含む文章は、「よく寝る子ではあった」「上の子は9時に寝ますね」「基本的には子どもと一緒に寝て」「子どもが寝てから（中略）自分の時間にあてれるから（原文ママ）」「（夫は）子どもが寝ている時間に帰ってくる」「子どもが寝た後に（夫に）相談することはできます」などであった。

「子ども」を意味する単語と「思う」を含む文章は、「子どもの思っていることもだいたい想像がつく」といった子どもが思っていることや、「(保育園で)子どもが楽しい体験とかいろんなことの体験とかしてほしいと思ってた」「本当にいい子だったと思います」「全部いい子だったら気持ち悪い、子どもらしくないと思って」「自分が手がかからない子だったと思っている」などであった。

「子ども」を意味する単語と「一緒」を含む文章は、「(寝る時間を)子どもと一緒にして」「(子育て支援センターは)子ども一緒に連れて行って遊べる」「下の子と一緒に本読んだり」など子どもとの共行動や、「(仕事をし
ていて)子どもと一緒にいる時間が貴重になった」「子どもと一緒に成長」などであった。

3. 動詞・形容詞の特徴的な単語(単語頻度分析・注目語情報)

動詞・形容詞それぞれについて、「単語頻度分析」(上位10位)により抽出した結果を図5～図8に示す。

動詞の「単語頻度分析」において、マルチリートメント傾向群と非マルチリートメント群で異なっていた単語は、マルチリートメント傾向群「怒る」「泣く」「食べる」、非マルチリートメント群「寝る」「入る」「違う」であった。形容詞の「単語頻度分析」において、マルチリートメント傾向群と非マルチリートメント群で異なっていた単語は、マルチリートメ

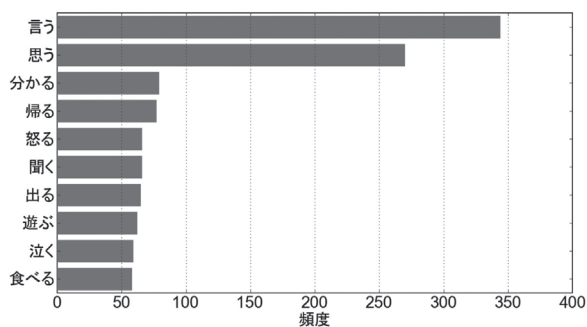


図5. マルトリートメント傾向群の動詞の単語頻度分析

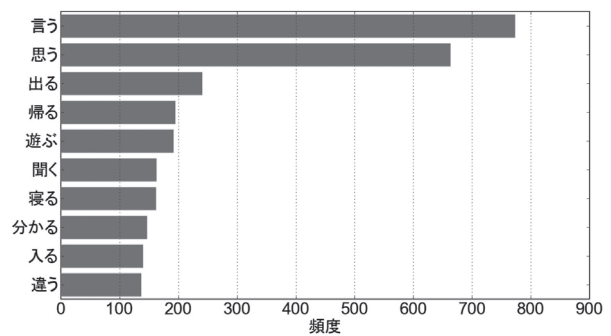


図6. 非マルチリートメント群の動詞の単語頻度分析

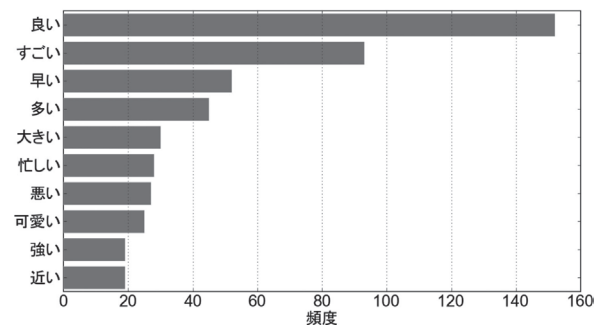


図7. マルトリートメント傾向群の形容詞の単語頻度分析

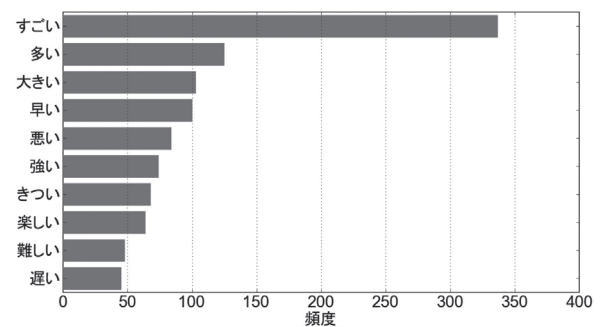


図8. 非マルチリートメント群の形容詞の単語頻度分析

ント傾向群「良い」「忙しい」「可愛い」「近い」、非マルチリートメント群「きつい」「楽しい」「難しい」「遅い」であった。「単語頻度分析」の結果、これらの動詞・形容詞を含む文章数は約20～100以上であり、全ての文章を参照して特徴を確認することは困難であると考えられたため、特定の単語に注目し、それが文章内でどのように使われているかを検討した。具体的には、特定の単語と同一文章に高い確率で出現する単語の組み合わせを線でつないで描画する手法である「注目語情報」を用いて分析

を行った（図9-1～図12-3）。なお，上位10位に入る単語であったマルチリートメント群の「泣く」「忙しい」，非マルチリートメント群の「遅い」は組み合わせの結果が得られなかった。この原因は，当該単語と同一文章に出現する単語の種類が多く，多岐にわたるため，各々の組み合わせの出現確率が低くなり，描画される組み合わせがなくなったからである。

マルチリートメント傾向群の動詞「怒る」の注目語分析では「感情的」「こぼす」などの単語が共起し，これらの単語を含む文章は，「すごく怒って，感情的に怒ってたと思います」「あんまり感情的に怒りすぎてもいけないんだろうなど，それは自分も分かっている」「牛乳こぼしたりするので，結構怒っちゃって」などであった。「食べる」では「パン」「お昼ご

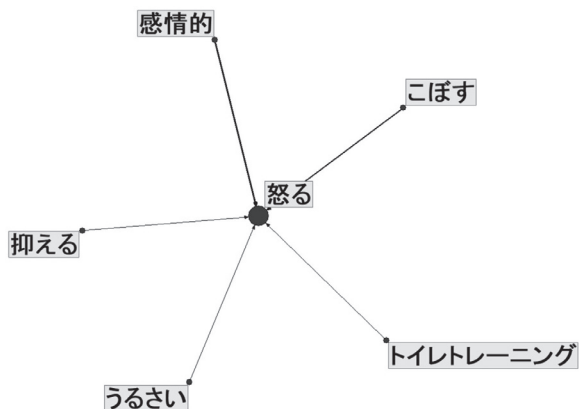


図9-1. マルトリートメント傾向群の動詞「怒る」の注目語分析（共起回数3回以上）

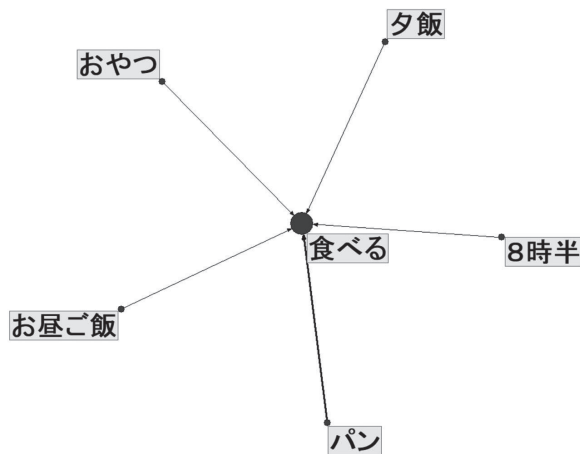


図9-2. マルトリートメント傾向群の動詞「食べる」の注目語分析（共起回数3回以上）

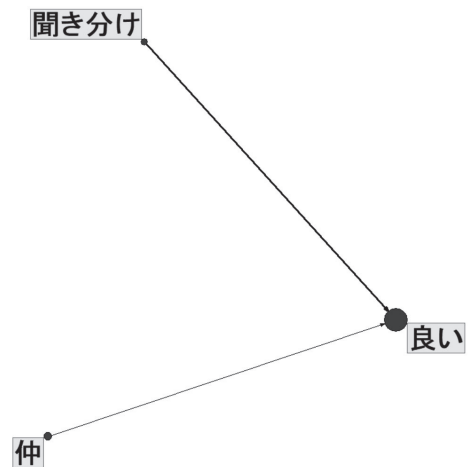


図10-1. マルトリートメント傾向群の形容詞「良い」の注目語分析（共起回数4回以上）

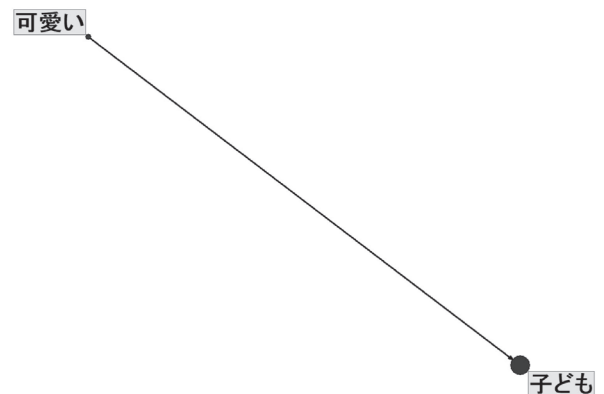


図10-2. マルトリートメント傾向群の形容詞「可愛い」の注目語分析（共起回数2回以上）

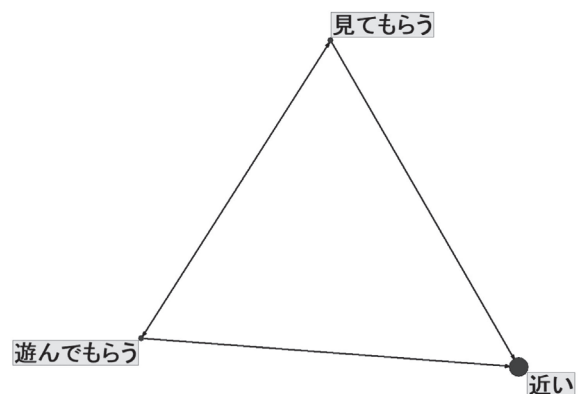


図10-3. マルトリートメント傾向群の形容詞「近い」の注目語分析（共起回数2回以上）

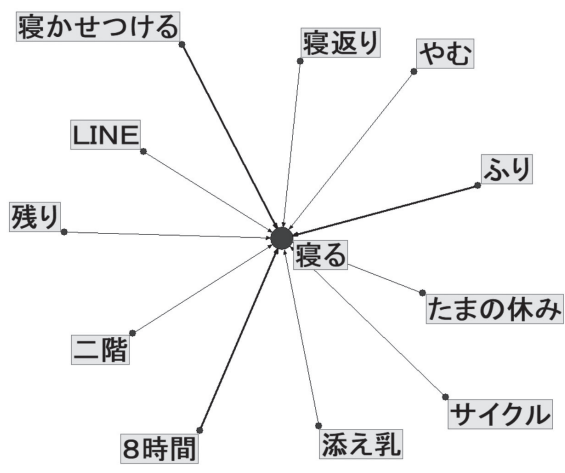


図11-1. 非マルチリートメント群の動詞「寝る」の注目語分析（共起回数2回以上）

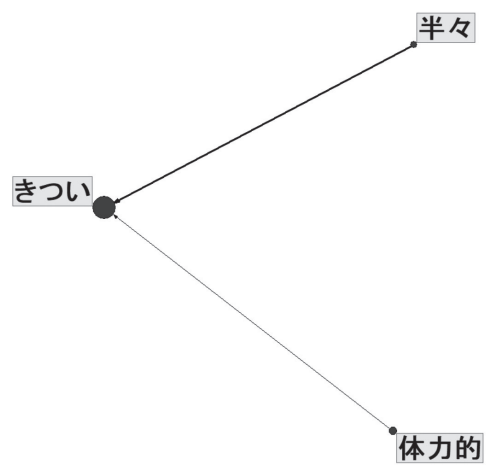


図12-1. 非マルチリートメント群の形容詞「きつい」の注目語分析（共起回数2回以上）

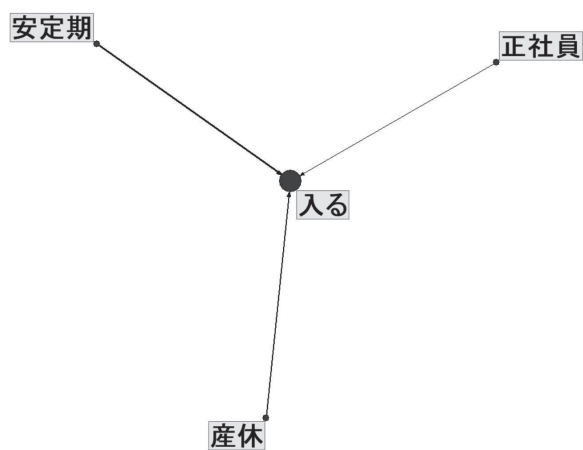


図11-2. 非マルチリートメント群の動詞「入る」の注目語分析（共起回数3回以上）



図12-2. 非マルチリートメント群の形容詞「楽しい」の注目語分析（共起回数2回以上）

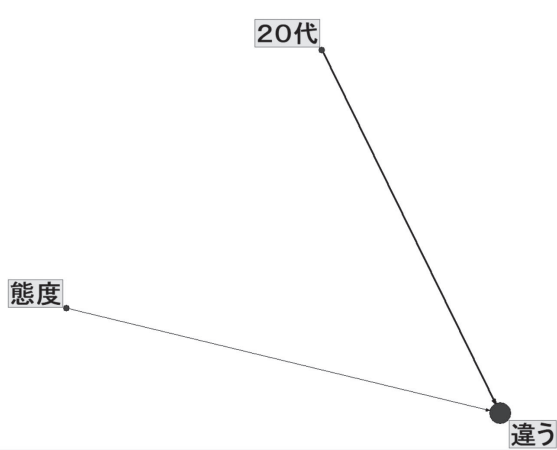


図11-3. 非マルチリートメント群の動詞「違う」の注目語分析（共起回数3回以上）

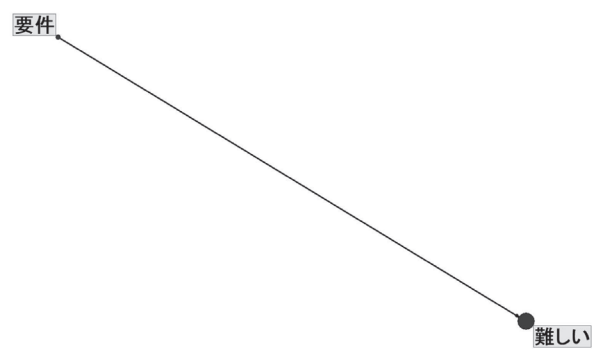


図12-3. 非マルチリートメント群の形容詞「難しい」の注目語分析（共起回数2回以上）

飯」などの単語が共起し、これらの単語を含む文章は、パンやお昼ご飯、おやつを子どもに食べさせる内容などであった。

マルトリートメント傾向群の形容詞「良い」の注目語分析では「聞き分け」「仲」の単語が共起し、これらの単語を含む文章は、子どもの聞き分けが良くなったことや自分が子どもの頃聞き分けが良かったこと、子どもや自分が友達や家族と仲が良いことや、子どものきょうだい間の仲の良さなどの内容であった。「可愛い」では「子ども」が共起し、これらを含む文章の多くは「下の子は可愛い」という内容であった。

「近い」では「見てもらう」「遊んでもらう」の単語が共起し、これらを含む文章は「(夫の両親の家が)近いので、子どものことを見てもらったり、遊んでもらったり」であった。

非マルトリートメント群の動詞「寝る」の注目語分析では「寝かしつける」「8時間」「ふり」などの単語が共起し、これらの単語を含む文章は「(夫に)ちょっと寝せてとか、今日はお願だから寝かせつけしてとかそういうのはありました」「(夫が)スマホ見てたのに、寝たふりしてたり」「(子どもと)一緒に寝て、寝たふりをして、寝たら起きて、残りの片づけとか」「しっかり8時間寝てればへっちゃらだったかな」などであった。「入る」では「安定期」「産休」などの単語が共起し、これらの単語を含む文章は「安定期に入るまで出血とかあって」「産休入って」などがあった。

非マルトリートメント群の形容詞「違う」の注目語分析では「20代」「態度」の単語が共起し、これらの単語を含む文章は「20代と30代の出産ってこんなに違うんだと」や、子どもが自分と夫や先生とは態度が異なるなどがあった。「きつい」では「半々」「体力的」の単語が共起し、これらの単語を含む文章は「(外出することも)ずっと行くのがきついので、半々ぐらい」「やっぱり体力的にきつくなってきて」などがあった。「楽しい」では「2人目出

産後4か月」「表情」の単語が共起し、これらの単語を含む文章は「4か月くらいまでは本当に楽しく毎日過ごしてた」「表情が増えてくるんですよ、(中略)(子どもと)二人だけの時間も少し楽しくなるというか」などがあった。「難しい」では「要件」の単語が共起し、これらの単語を含む文章は「(産後仕事をしようとしたら)結構要件が難しかった」などであった。

IV 考察

1. 自分や子どもを含む文章の特徴

1) マルトリートメント傾向群の特徴

マルトリートメント傾向群の「自分」や「子ども」を意味する言葉の特徴的な単語が含まれる文章では、自分と近い他者との相互に見る・見られる関係、怒ることの気持ちや状況および記憶、自分への嫌悪や自分や他者の嫌という気持ち、自分や子どもが怒っていること、下の子どものみを可愛いと思うことや上の子どもの可愛いと思えなくなったということ、子どもが泣くことの内容があった。

このようにマルトリートメント傾向群の母親は、他者から自分への視線や、自分から他者への視線を意識することが考えられる。また、自分が怒ることや怒られたこと、子どもが泣くこと、また怒る自分への嫌悪などが印象に残っていることが考えられる。加えて、「下の子は可愛い」「上の子が以前のように可愛く思えなくなった」といった子どもによる明確な感情の違いを自覚していると考えられる。つまり、マルトリートメント傾向群の母親は、人間関係に意識が向きやすく、また日常的に不快な感情を抱えている可能性があった。またマルトリートメント傾向群の子どもは2人ずつであったが、そのうち長子の子どもの対して可愛いと思えない葛藤を抱える場合があることが考えられた。

2) 非マルトリートメント群の特徴

非マルトリートメント群の「自分」や「子ども」の特徴的な単語が含まれる文章では、母親

自身の睡眠や休養，仕事や母乳に関わること，外に出ることや子どもの自我が出ること，実家などに帰ること，子どもの睡眠，子どもが寝た後の時間，子どもや自分に対して母親が思っている様々なこと，子どもとの共行動やそれをポジティブに捉える内容があった。

このように非マルトリートメント群の母親は，自分の睡眠や休息に注目するなど自分の健康を重視していることが考えられる。また，様々な日常の自分自身の行動や状況，感情，自分と子どもの共行動などの内容が多く，自分のことが印象に残りやすいことが考えられる。また子どもとの時間や子育てを自分にとってポジティブなものとして捉えることが考えられる。つまり非マルトリートメント群の母親は，子育ても含めて，自分を中心に思考しやすい可能性が考えられた。

2. 動詞・形容詞の特徴

1) マルトリートメント傾向群の特徴

マルトリートメント傾向群の「動詞」「形容詞」の特徴的な単語が含まれる文章では，怒っていることの自覚やそれをいけないと思う気持ち，怒る場面，パンやお昼ご飯などを子どもに食べさせること，子どもの聞き分けが良くなったこと，子どもや自分が友達や家族と仲が良いこと，子どものきょうだい間の仲が良いこと，下の子が可愛いということ，夫の両親に子どもを見てもらうことであった。

これらのことから，マルトリートメント傾向群の母親は，自分が怒っている自覚や罪悪感を普段から抱えていることが考えられる。また子どもの聞き分けの良さが印象に残っていることから，子どもを自分の思う通りにコントロールしたい気持ちがあり，それが上手くいかずに怒るが，また怒ることへの罪悪感も抱えている可能性が考えられる。そして食べさせるという子どもの世話や，夫の両親に子どもを見てもらうことが印象に残っていることが考えられ，子どもの世話を負担に感じている可能性もある。加えて子どもや自分の人間関係の良さも印象に

残っていることが考えられる。つまり，マルトリートメント傾向群の母親は，子育てが上手くいかない感覚や負担感を感じている可能性，および人間関係を重視する可能性が考えられた。

2) 非マルトリートメント群の特徴

非マルトリートメント群の「動詞」「形容詞」の特徴的な単語が含まれる文章では，自分の睡眠や体調，妊娠出産や仕事，夫への要求や不満，子どもの寝かしつけ，子どもの態度や変化への気づき，子育ての楽しさの内容があった。

このように，非マルトリートメント群の母親は，自分自身についてや，自分自身や周囲に対して自分が思うことについての内容が多いと考えられた。つまり，非マルトリートメント群の母親は，日ごろから自分に対して注意が向きがちであったり，自分を中心に他者を見ている可能性が考えられた。

V まとめと課題

本研究の結果から，マルトリートメントを行っている母親は，人間関係を重視する可能性が考えられる一方で，そうでない母親は，自分を中心に考えやすい可能性が考えられた。このことから，マルトリートメントを防ぐ一方法として，母親自身が他者を優先せず，体調も含め，まず自分を優先して考えるようなプログラムを検討することは有効と考えられる。一方でマルトリートメントを行っている母親は，日常的に不快な感情や上手くいかなさを抱えていることが考えられたため，それらの不快な感情や上手くいかなさに対して，「自分がどのように感じているのか」「自分はどうしたいのか」など自分を主体にして捉えなおすフォーカシング等のプログラムやカウンセリングを行うことで，自分を中心に思考しやすくなり，ひいては，マルトリートメントの軽減につながる可能性も考えられる。そして今回，マルトリートメントを行う母親の発言の特徴として「下の子は可愛い」があったが，子育てにおける支援者は，保護者

の子育て全般に注目するだけでなく、きょうだい間の違い、特に長子への感情について留意する必要があると考えられた。

本研究の課題として、マルトリートメント傾向群と非マルトリートメント群の群分けを、インタビュー内容から、本人または周囲が通常よりもその程度がひどいと認識しており、それが改善していない場合とそうでない場合としたが、より明確な基準を設けられなかったことが今後の課題として残される。

謝辞および利益相反

調査にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。本研究はJSPS科研費19K03318の助成を受けたものです。本研究において利益相反に関する事項はありません。

注

1) これらの研究は、いずれも一般の親を対象として不適切な養育について検討したものであり、マルトリートメントという用語の他、虐待傾向、軽度の虐待傾向、不適切な養育、子ども虐待傾向といった様々な用語が用いられている。

文献

明野聖子（2023）乳幼児を育てる母親の育児幸福感に関連する要因 日本地域看護学会誌, 26（1）, 50-58.

浅川友祈子・我部山キヨ子（2022）第2子出産に伴う第1子に対する母親の育児感情の変化：妊娠後期から産後1か月の縦断研究 母性衛生, 63（1）, 102-111.

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会（2022）子ども虐待診療の手引き改訂第3版

https://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=25（2024年1月13日閲覧）。

日本小児保健協会（2011）幼児健康度に関する

継続的比較研究：平成22年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業平成22年度総括・分担研究報告書。

春日由美（2021）母親の育児困難感および育児不安の定義に関する文献的研究, 山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要, 12, 27-36.

片山綾子・奇恵英（2007）母親の自己イメージと育児不安に関する研究 福岡女学院大学大学院紀要：臨床心理学, 4, 15-20.

厚生労働省（2023）令和3年度福祉行政報告例の概況

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/gyousei/21/dl/gaikyo.pdf>（2024年1月13日閲覧）。

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課（2013）子ども虐待対応の手引き（平成25年8月改正版）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/dl/130823-01c.pdf（2024年1月13日閲覧）。

厚生労働省「体罰によらない子育ての推進に関する検討会」（2020）体罰等に寄らない子育てのために～みんなで育児を支える社会に～

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/30e11e09-7848-46af-8713-5e3a311c7913/ee6edb2d/20230401_policies_jidougyakutai_taibatsu_01.pdf（2024年1月13日閲覧）。

子ども家庭庁（2023）令和4年度児童相談所における児童虐待相談対応件数（速報値）

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/a176de99-390e-4065-a7fb-fe569ab2450c/12d7a89f/20230401_policies_jidougyakutai_19.pdf（2024年1月13日閲覧）。

中谷奈美子（2016）子どもの行動に対する母

- 親の帰属と不適切な養育—感情を媒介として—
— 心理学研究, 87 (1), 40-49.
- 西村由美子・有村達之 (2020) 母親の失体感
症傾向と子ども虐待傾向の関連性について
心理・教育・福祉研究 (九州ルーテル学院大
学人文学部心理臨床学科), 19, 9-17.
- 白石裕子・舟越和代・中添和代 (2002) スト
レス場面における言語的反応の特徴からみた
母親の虐待傾向とその関連要因 日本看護研
究学会雑誌, 25 (5), 47-58.
- 唐軼斐・矢嶋裕樹・桐野匡史・種子田綾・中嶋
和夫 (2005) 母親の子どもに対するマルト
リートメントの構造化の試み 日本保健科学
学会誌, 7 (4), 269-276.
- 山口茂嘉・森元真紀子・鈴木薫 (2000) 幼稚
園に於ける子育て支援の基礎的研究—母親の
自己受容と子ども受容などとの関連について
岡山大学教育学部研究集録 岡山大学教育学
部学術研究委員会編, 113, 173-177.
- 柳川俊彦 (2005) 子ども虐待防止の現状. 和
歌山県立医科大学保健看護学部紀要, 1,
11-22.